

6. 日本獣医史学会の歴史と現状

小佐々 学

日本獣医史学会理事長

はじめに

日本医史学会が本年創立九十周年を迎えられましたことを、日本獣医史学会の会員を代表してお祝い申し上げます。

私ども日本獣医史学会は創立四十五周年ですが、日本医史学会は二倍もの永きにわたって医学や医業の歴史に関する研究業績により、医学・医療ならびに関連分野の科学技術の発展に寄与して社会的貢献を果してこられましたことを、ここに心からの敬意とお慶びを申上げる次第です。

日本獣医史学会設立の経緯と概要

獣医学の歴史を後世に伝えることの重要性を痛感された東京大学名誉教授の田中丑雄(元・東京大学農学部長、東京農工大学学長、日本大学獣医学研究所長)が、『日本獣医学史』(1944年、文永堂発行)の著者である文永堂の白井恒三郎(白井紅白、当時『獣医畜産新報』編集主幹)に獣医史学に関する研究会の設立を提案された。これを受けて、1972年6月に「日本獣医史学研究会」の設立総会が開催されて会が発足した。その後、1976年に「研究会」が「学会」に改組され、今日に至っている。

以下に、その概要を列挙する。

(1) 歴代の会長・理事長：

初代・田中丑雄(1972年～)、二代・石井進(1983年～)、三代・添川正夫(1986年～)、四代・黒川和雄(1992年～)、五代・深谷謙二(2007年～)、六代・小佐々学(2010年～)。

(2) 歴代の事務局(局長名)：

文永堂(山田実、1972年～)、医聖社(岩根雄治郎、1981年～)、日本大学農獣医学部(長尾壮

七、1989年～)、麻布大学動物病院(小方宗次、1996年～)、東京大学大学院農学生命科学研究科獣医病理学研究室(中山裕之、2009年～)、東京大学大学院農学生命科学研究科国際動物資源科学研究室(杉浦勝明、2014年～)。

(3) 歴代の編集長：

白井恒三郎(1972年～)、逆瀬川貞幹(1975年～)、黒川和雄(1986年～)、深谷謙二(1992年～)、小佐々学(2001年～)、安田隼也(2010年～)。

(4) 総会と研究発表会・機関誌：

総会は年1回春に開催。研究発表会は年2回春秋に開催。

創刊号～第7号『日本獣医史学研究会報』、第8号～『日本獣医史学雑誌』。

(5) 会の構成(2017年4月現在)：

正会員・学生会員、評議員、理事8名(うち理事長1名・常務理事3名)、監事2名、顧問2名、名誉会員10名、賛助会員8団体・広告掲載2社。

業務部会：企画、庶務、財務、編集、広報、研究発表会、会員関係業務、国際関係業務、編集委員会。

(6) 他学会との交流：

世界獣医史学会(WAHVM: World Association for the History of Veterinary Medicine)に1992年加盟。

日本医史学会・日本薬史学会との三史学会合同例会に1998年から参加、その後六史学会合同例会に発展。

獣医史学教育の現状と展望

従来の獣医学教育では国立大学・私立大学の数校で獣医史学の講義が一時的に行われていたが国家試験とは無関係との理由で廃止されており、日

本獣医生命科学大学1校だけで講義が続けられてきた。

2011年に獣医学教育モデル・コア・カリキュラムが制定され、講義科目の獣医学概論の中に獣医史学が明示されており、2013年度の入学生から

獣医史学が必修となった。従って、わが国の獣医学教育における獣医史学の位置付けが明確になったため、今後の獣医史学研究の進展と共に日本獣医史学会の活動が期待される状況にある。